

令和3年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	「チーム大川」として、「福祉マインド」による教育活動を展開し、生徒・保護者・地域等からの信頼を得る ①「学び直し」により、どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、着実に学力を身につける ②深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現を図るとともに人格の完成を目指す ③地域と連携して、開かれた学校づくりをすすめるとともに、安定した生徒募集を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	事務局(教職員)	4名

年度目標 令和3年5月		令和3年12月～令和4年1月		
番号	現状と課題	P(具体的方策)及びD(実行) ◎新規 ○継続	C(評価) ◎向上・新規 □維持・継続 ×課題	
1	<p>○学習意欲が低く(家庭学習の習慣が身につけていない)、義務教育段階の学習内容の定着が不十分である生徒が多いため、保護者から「学び直し」への期待の声がたいへん多く聞かれる。</p> <p>○成績上位層の中から「入れる学校」から「入りたい学校」へチャレンジする生徒が増えてきた。</p> <p>○昨年度全校生徒の授業満足度は86.4%であるが、一部に「授業の雰囲気を上向きにしたい」と願う生徒がいる。</p> <p>○初任者教員3名を採用。「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教員の授業力(指導力)向上が、最重要課題である。また、GIGAスクール構想への対応も急務である。</p> <p>→学習の「学び直し」体制のさらなる充実 →競争率の高い学校への進学希望を実現する学びづくり →教員研修の充実と「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践研究 →1人1台端末時代に向けての教育ICT環境の整備</p> <p>○来年度から新学習指導要領の順次導入が始まる。 →本年度、県への新教育課程申請手続き</p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大を抑えることを考慮した教育活動の実施が求められる。一部の保護者から不安の声が聞こえる。 →行事の工夫等、コロナ禍を意識したスピード感のある対応</p>	<p>◎教育課程外(放課後等)の時間の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日は「学び直しの日」→「ステップ・アップ講座」 ・早朝に校長特別講座「ゼロゼミ」→学習リーダーの育成 ・土曜に「サタゼミ」→生徒一人一人の実態に合った英語指導 <p>◎生徒主体の学校行事(体育祭)の実現</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」のある授業(地域等と連携したコラボ授業としての位置付けあり)として、SDM(システムデザインマネジメント)授業(慶應義塾大学大学院との連携)、普通科選択授業(フィットネス)におけるミュージカル教育(ソニー・ミュージックエンタテインメントとの連携)を実践研究</p> <p>◎初任者研修会ほか各種研修への参加推進及び校内若手教員研修会(おせつ会研修)の実施</p> <p>○各種検定合格率増加と上位級合格に向けた指導の工夫</p> <p>○新教育課程検討委員会の計画的実施</p> <p>◎学園本部、専門学校との適時・臨時的連絡会議</p> <p>◎コロナ禍に対応した教育活動の工夫改善</p> <p>◎GIGAスクール構想実現に向けた検討委員会の立上げ</p>	<p>【評価指標】</p> <p>授業満足度90%以上(全生徒への授業アンケート)</p> <p>→83.4%▼(昨年度86.4%)</p> <p>×授業の雰囲気づくり、高度な学習内容の導入に課題(生徒アンケート)</p> <p>×ゼミ、講座参加生徒→減少(年度途中のドロップアウト)</p> <p>◎生徒主体の体育祭→成功(コロナに負けず)</p> <p>□SDM授業、ミュージカル教育→充実</p> <p>◎若手教員研修会(おせつ会研修)→年間11回実施</p> <p>□コロナ禍における教育活動→順調</p> <p>△GIGAスクール構想実現に向けた取組→やや停滞</p>	<p>達成度</p> <p>A</p> <p>A(次年度への課題と改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスワンの職務行動で教育力アップ(重点目標3) ○「学び直し」「伸びしろ」を生徒に実感させる教育活動の推進 ・“時に習う”(予習・復習)の推奨 ・ステップ・アップ講座、サタゼミ、ゼロゼミを継続する生徒増加の工夫 ・3学年普通科でコース別編成クラスの導入 ・特色あるコラボ授業の推進(SDM、ミュージカル、モルック、駿河台大学との連携) ・生徒主体の割合を高めた行事等への取組の推進(生徒会・実行委員会への指導等) ・教員の資質向上の取組(市内公立学校授業参観の実施検討、校内若手教員研修会「おせつ会研修」の継続等) ・大川学園版GIGAスクールに向けた教員研修の実施 ・ボランティア活動への支援(地元との連携、地域行事への参加、地元メディア等への発信) ・部活動の活性化
2	<p>○全体として落ち着いた生徒指導状況であるが、遅刻者が多い(昨年度若干改善)、SNSによるトラブルなどの問題がある。</p> <p>○中学時代まで持ち味を十分発揮できず、「あまり面倒を見てもらえてない」「自分に自信が持てない」「人と関わるのが苦手」という生徒が多い。</p> <p>→小さな変化に気付き共有できる、フットワークの軽い、チームワークのよい教員集団づくり</p> <p>→全教育活動における心の教育の推進 →生徒主体の学校行事づくりへの挑戦</p> <p>○進学・就職後1年未満に進路変更をする卒業生の報告を受けることがある。</p> <p>○昨年度進路決定率100%(大学浪人1名含む)だが、卒業生の進学・就職実績のある進路を選ぶ傾向が強い。</p> <p>→生徒の実態を踏まえた進路学習計画とその実践 →1年次からのきめ細かな進路相談 →各自の目標に「挑む」生徒へのサポート</p>	<p>◎厳しくも温かい”面倒見がよい”生徒指導の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3つの基本」(時間を守る/人の話を聞く/素直に聞き入れる)、「メリハリ」のある生活態度の日常指導強化 ・教職員ガイダンス資料見直しで、共通理解・共通行動の推進 ・定期的な生徒アンケートの実施 ・担任との2者面談、3者面談の実施・充実 ・カウンセラーの教室訪問等の実施 ・外部指導者によるデートDV防止講演会、SNS活用マナー後援会の実施 ○導入4年目、担任等による道徳授業の実施継続、道徳的価値を意識した行事づくり ○「生徒自ら」に見える化する学校行事づくり(体育祭・学園祭・マラソン大会・修学旅行など) <p>◎進路指導事業の実施・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会・資料配布会 ・進路活動講座(全6回・3年希望者) ・大学見学会(駿河台大、日本社会事業大) <p>◎キャリアパスポートの活用</p> <p>○新たな進路先の開拓と生徒への情報提供</p> <p>○自主的な朝学習・面接指導などの申し出へのサポート</p>	<p>【評価指標】</p> <p>進路満足度90%(3学年アンケート)</p> <p>→85.8%▼(昨年度89.2%)</p> <p>進学(4年制大学10名・短大2名・専門学校等41名)</p> <p>就職他19名 2/4現在</p> <p>×登下校指導、服装・頭髪指導等A→C(教職員アンケート)</p> <p>△服装・頭髪、携帯電話の使用等のルールについての共通理解・共通行動(指導)→課題あり</p> <p>□面談、アンケート、講演会等→計画通り実施</p> <p>□道徳授業→計画通り実施</p> <p>◎生徒主体の体育祭→成功(コロナに負けず)(再掲)</p> <p>□進路指導事業→大学見学会中止(コロナ)以外は計画通り実施</p>	<p>達成度</p> <p>A</p> <p>A(次年度への課題と改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確実な情報連携のある生徒指導(重点目標2) ○落ち着いた学校生活に向けた積極的な生徒指導の推進 ・集会等で「生徒部長より」の講話を導入 ・生徒部会の定期的開催(教育支援担当含む) ・課題を抱えた生徒への手厚い指導・支援の継続 ・入学当初の1年宿泊学習の活用 ○進路決定率100%を目指す進路指導 ・3年間を見通した進路行事の推進(ポートフォリオの活用) ・「難関へ“挑”む」を支える担任等の丁寧な指導・支援
3	<p>○「ボランティアの大川」という評価は飯能市や日高市には定着しているが、「福祉科のある大川」の評価は広がり欠けている。</p> <p>→ボランティア活動の継続 →福祉科のある高校としての存在感を示す取組の推進</p> <p>○本年度全日型(週5日登校)入学生は75名(定員80名)。特に福祉科の入学生が32名にとどまった。中学生の急減、県西部地域の公立高校の定員割れなど、引き続き生徒募集環境が厳しい。</p> <p>→法人本部広報室と連携した戦略的な広報、生徒募集活動の推進 →「福祉の大川」をより強くPRする取組の工夫</p>	<p>○市内外のボランティア活動等を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(赤い羽根共同募金への全校参加等) ・飯能市周辺行事(飯能まつり、震災復興元気市、天覧山清掃等)へのボランティア参加者増加 <p>○福祉科の実績づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術コンテスト等に応募 ・2022全国福祉高校校長会研究協議会への協力 ・3年連続日本社会事業大学の合格に向けたサポート ・大川学園医療福祉専門学校との合同授業 ・福祉系大学からの教育実習生受入れ ・福祉関係諸協会の合格率アップ <p>○定期・臨時的生徒募集委員会開催</p> <p>○学校説明会参加者増加に向けた取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な募集について職員研修 ・参加者の情報管理システムの一層の改善 ・学校説明会の運営方法の工夫改善 ・見ごたえのある学校案内の作成 ・出前授業(特に福祉科)などの増加に向けた取組 ・管理職によるトップセールス <p>○ホームページの改善、学校ブログ「大川学園高校NOW!」の毎日更新</p>	<p>【評価指標】</p> <p>福祉科40名、普通科40名定員充足率100%以上。</p> <p>→63.8%(福祉科28名、普通科23名)2/4</p> <p>現在▼▼(昨年度93.8%:福祉科32名、普通科43名)</p> <p>×市内外のボランティア活動→停滞(コロナ)</p> <p>□福祉科の取組→ほぼ計画通りに実施(日本社会事業大学への受験希望者なし)</p> <p>◎中学校における出前授業(福祉科)、本校生徒による中学校訪問→機会の増加</p> <p>△ホームページの改善→課題が残る(学校ブログは毎日更新したが)</p>	<p>達成度</p> <p>B</p> <p>A(次年度への課題と改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求める生徒像(「伸びしろ」を大きくしたい生徒)を明確にし、定員確保に向けた募集活動を展開(重点目標1) ○中学校教員等に「大川のよさ」が届く募集活動の推進 ・学校案内パンフレットの早期作成(5月中旬まで) ・中学校等訪問エリア及び担当者の見直し、中学校訪問の回数増加 ・ホームページの改訂 ○県内NO.1の福祉科を目指す取組の推進 ・介護技術コンテストで全国大会を目指す取組 ・福祉力検定等の上級合格者増加に向けた取組の推進 ・大川学園医療福祉専門学校との連携授業実施PR(全校集会等) ・日本社会事業大等など福祉系大学への進学者の増加 ・施設実習施設の再開に向けた指導の充実

学校関係者評価
実施日 令和4年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>○教材教具の工夫、IT機器の活用等、「よい準備」をして「よい授業」に臨もうとする教員の姿がうかがえる。</p> <p>○生徒一人一人の進級、卒業の実現に向けての、教員のねばり強い指導(補習授業の実施等)を評価。</p> <p>○ステップ・アップ講座、サタゼミ、ゼロゼミの実施を評価。さらなる工夫、充実に期待。</p> <p>○体育祭。生徒の生き生きとした姿に感動。生徒中心の運営を評価。イベントの実施は重要である。</p> <p>○コロナ禍で「無理をしなくてよい」という指導が多くなるが、これが生徒に与える影響を考えると不安である。</p> <p>○リモート授業の重要性が叫ばれているが、リモート授業には限界を感じる。1時間1時間の対面授業を大切にしてほしい。</p>
<p>○進路指導は計画的かついいに行われている。</p> <p>○生徒指導について。生徒は全体的に落ち着いた学校生活を送れていると感じる。明るく自然な挨拶ができる生徒の増加を望む。</p> <p>○生徒の実態にあった心の指導(道徳、生徒指導)を期待する。「生徒の胸に届いているか」を考えながら進めてほしい。</p> <p>○校則について。「なぜこの決まりがあるのか?」と思っている生徒もいる。社会に出て生きる指導を進めてほしい。</p>
<p>○生徒募集の方略がユニークで「大川らしさ」を感じる。積極的な出前授業等、PR効果が高いと思われる。</p> <p>さらに継続しプラスアルファの工夫を。</p> <p>○コロナの影響か、生徒(中学生)の学びの意欲が低下しているように感じる。毎日通わずに済む高等学校を選ぶ生徒が増えている。生徒募集において考慮を。</p> <p>○コロナ禍で、地域との連携のチャンスが減少してしまっている現状。しかし「地域あつての大川学園」という思いを大切にしてほしい。</p>